

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4790100418		
法人名	沖縄医療生活協同組合		
事業所名	生協グループホーム安謝		
所在地	沖縄県那覇市安謝250番地		
自己評価作成日	平成 26 年 1 月 9 日	評価結果市町村受理日	平成26年5月16日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>・「生活の中でひとりひとりの役割や出番を作り、穏やかに過ごせるように」を理念に掲げ、これまで過ごしてきた過程を大切に、ご本人のできること、やりたいことを見つけ出し、ご本人の出番を多く作れるように働きかけています。また介護職員の経験も浅いため、施設全体の学習会を学習係を中心に計画し毎月開催し、施設内にポスターを張り出し、多くの職員の参加を促し、職員育成に力をいれています。</p>

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.jp/47/index.php?action=kouhyou_detail_2012_022_kani=true&JigyosyoCd=4790100418-00&PrefCd=47&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 沖縄タイム・エージェント		
所在地	沖縄県那覇市曙2丁目10-25 1F		
訪問調査日	平成26年2月5日		

<p>事業所は法人施設(安謝ハウス)の3階に開設し、近隣は八百屋等の店舗や住宅が密集する環境となっている。管理者は施設全体の管理も担っており、毎年事業目標を設定し、職員も個人目標を掲げる等で事業所運営に取り組んでいる。毎月の職場会議で業務等に関する意見や提案、検討を繰返し、記録の短縮化や休憩時間の確保を図っている。職員は休憩時間を確保されたことにより、気分転換が図られ、また、書式の変更で記録への負担も軽減したと捉えている。医療生協の組合員さんが地域に展開している事を活用し、高齢者福祉で地域へ貢献、専門職として還元できるよう今後の取組みに期待したい。</p>

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

確定日:平成 26年3月11日

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	・開所前に各自に「どんなグループホームをつくりたいか?」を記入してもらいそこからキーワードをだして理念を作成した。理念を参考に事業所の年間目標を作成、そこから個人の目標を設定し業務を遂行しているが、理念・目標を日々認識が薄れてしまっていることもある。	事業所の理念は「ひとりひとりの個性や暮らし方を尊重し…」等3つの項目で、特に「役割や出番」の実践では、入居者一人ひとりの情報を基に計画に反映し、入居者の自主活動にも繋げている。理念は事業所入口に掲示し、職場会議等でも理念を振り返る機会としている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	・毎日、入居者の方を連れて近所の八百屋やスーパーに買い物に出かけている。店員さんとも顔見知りになっている。	地域自治会に加入し、自治会長等から地域行事等の情報を得て、「旗頭同好会」の訪問も受けている。日常的に入居者も一緒に八百屋等での買物で近隣住民と交流、認知症サポーター養成講座開設等があるが、管理者は地域住民への認知症の理解や周知への取り組みは足りないとしている。	医療生協法人として地域に展開している組合委員の協力を活用し、地域住民への認知症高齢者への理解と啓蒙活動に繋げるよう取り組んでほしい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	・自治会に入会し、行事には入居者と一緒に参加している。また年に1回は認知症サポーター養成講座を開催し、地域住民へも宣伝し参加してもらっている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	・2ヶ月に1回の運営推進会議は開催し、前年の外部評価で指摘があった入居者の参加を毎回交代で行ない、入居者の意見や感想も述べている。毎回の報告では不適合事例や行事・学習会の開催等報告している。報告後、参加者より意見をいただいて、サービスの向上につなげている。	会議は定期に開催し、昨年の外部評価で会議への入居者参加の課題を、入居者を毎回交代して参加できるよう取り組み、入居者も意見等を表出している。会議では、事業所の報告等(特に事故等への対応)について意見交換し、また、委員から大掃除等への協力の提案を受けている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	・運営推進会議で那覇市の担当者が毎回、参加して事業所の状況報告等行っている。	運営推進会議には行政担当者の参加があり、事業所の運営状況や入居者の活動内容、意見等を把握している。会議では家族から「夜勤時の職員体制への不安や要望」等の質問も受けている。管理者は法人企画の自治体キャラバンに参加し、介護サービスの改正について行政側の取り組みについて説明を受けている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	・進呈拘束については学習会を年に1回、資料の読み合わせを行っている。また日頃から、例をあげてこれが身体拘束に当たるなどとカンファレンスなどを通して認識を一致している。	身体拘束廃止マニュアルや身体拘束ゼロの手引き等を整備し、職員間で勉強会を実施している。また、事故の再発防止についても職場会議で話し合い、拘束をしないケアへの意識付けをしている。「帰宅願望」の訴えが単に家に帰ることではなく、入居者と話す中で別に要因がある事が解り、家族と協力し対応している。	

沖縄県(生協グループホーム 安謝)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	・職員研修で虐待防止について学習会を行い、日々の業務のなかでも虐待に繋がる行為がないよう防止している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	・昨年は権利擁護について研修を受けた職員から報告学習会を行ったが、今年は学習会は開催できていない。現在入居者の一人が成年後見人制度を手続き中であるので今後学ぶ機会を付けていきたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は利用料金や医療連携加算について理解できるように説明し同意を得ている。その後は疑問点・不明な点などないか確認をとっている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱を設置はしているが、できるだけ直接職員に意見や要望が気軽に伝えられるように心がけてはいる。また運営推進会議では家族からの意見や要望をミーティングで報告している。またフィードバックノートを利用し要望・苦情・感謝などがあつたらどのように対応したかも記録しそれもミーティングで報告している。	入居者の殆どが直接意向を伝え、入居者からは、食事や外出等への要望等が多くなっている。家族に対しては年1回家族アンケートを実施し、「サービス計画に入居者や家族の希望が反映されていない」の項目に疑義があり、職場会議で議題として話し合っている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回は職場会議、ミーティングを開催し、できるだけ全員が発言できるように努め、少数の意見でも皆んなでどうするか討議して運営に反映できるようにしている。	職員は職場会議で意見を述べる他、個人目標の確認等で、年2回管理者との面談の機会を持っている。新任職員の休憩に関する意見を職場会議で検討した結果、半日勤務の就業時間を1時間延長し、職員の休憩を確保する等して反映させている。研修等は業務として参加し、職員も報告等で還元している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	有資格者への手当、通信教育(生協)終了者への半額費用負担を実施している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人作成の介護職員評価票をチェックし一人一人の力量を把握している。月1回の施設全体学習会にはポスターを張り出し宣伝を呼びかけている。法人内外の研修に関する情報があれば提供して知識向上に努めている。		

沖縄県(生協グループホーム 安謝)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	那覇市・県のグループホーム連絡会へ加入しそこの研修・親睦会では職員への参加を促し同業者との交流がもてるように努めている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前には実調を行い、自宅での本人の様子、ご家族との関係性、ADLを確認し入居にあたり不安なことや要望などにはしっかり耳を傾けている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族には入居時の希望や不安、要望に耳を傾けている。また入居後の本人の様子などは連携をとりながら家族の不安を取り除けるよに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	医療との連携や受診時の支援などその時必要なサービスはすぐに対応できるように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	朝の清掃時には皆んなに声かけし、できる方には一緒に部屋の拭き掃除や手すり拭きなど行っている。食後はお茶碗あらい、テーブル拭きなども一緒に行っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族の面会時には、本人の様子を報告したり、ゆっくり話ができるように環境作りを行い、本人と家族の絆を大切にできるように努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人が会いたいなど要望があったら、電話を入れて面会に来て頂くよう協力してもらっている。	入居者と交友のあった友人の来訪があり、例えば、模合仲間、飲み仲間、近所の衣料品店の店主等、訪問時には、入居者も表情を変え、発語する名前が増える等一緒の時間を楽しんでいる。入居者の趣味を把握し、活動の中で発揮できるよう積極的に声をかけている。	

沖縄県(生協グループホーム 安謝)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	食堂の座席配置などを調整して入居者同士が孤立したり、衝突しないように気配りし、入居者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	施設で看取りを行った方の娘さんとは亡くなってしばらくは電話やちょっとしたお手紙などで近況や体調などががっていた。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の発した言葉や動作が何を意味しているのか考えて関わっていくことを念頭にしている。帰宅要求のある方には本人の意向を確認して自宅に電話を入れ安心感を与えたりゆっくり話を聞くように努めている。	入居者が「自分がやるべきことが解るようにしてほしい」との要望があり、朝のミーティングに職員と一緒に参加し、本人のスケジュールを確認し役割を担えるよう支援している。また、「ゆったり過ごしたい」の意向には、新聞や読書、静かに音楽を流す等、環境を整え支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族の面会時には、できるだけ声かけしこれまでの生活の様子や若い頃の話をつらつらしている。また日常の会話の中からも見出すことができるよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人一人の排泄や睡眠パターンをチェックし記録することで心身の状態を把握しその中から検討できる事項(トイレ誘導時間の検討など)をカンファレンスなどで討議して現状の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定期的なカンファレンスを開催し、担当の職員でサービス内容の確認、モニタリングを参加者全員で行い、サービスの変更やケアの統一を図っている。	入居者のアセスメントには利用開始前や面会時の情報、計画は入居者や家族の要望や意向を反映して作成、カンファレンスを基本6か月に1回、状態によっては随時実施している。毎月のモニタリングでサービス実施内容を確認し、見直しや変更につなげている。入居者によっては担当者会議に成年後見人も参加している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の記録はサービス内容の実施がチェックで確認できるように工夫し、特記事項も記載できるように様式を作成している。また別に申し送りノートを作成し、業務や入居者の情報など継続して引継ぎができるようにしている。		

沖縄県(生協グループホーム 安謝)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	病院受診などご家族が同行できない場合は職員で同行している。食事療法が必要な方については法人内の栄養士に作り方のポイントなどをきいてできる限り治療食に近い食事を提供できるように取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	自治会に加入し、自治会主催の行事にできるだけ参加するように努めている。自分たちの食事作りのための材料を近所の八百屋やスーパーと一緒に買い物に出かけている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時にご家族から希望のかかりつけ医を確認している。訪問診療を受けている方には同席し、医師との連携を図っている。病院受診では主治医に確認して事項などは連絡ノートに記載し持参してもらっている。	入居者や家族の希望するかかりつけ医や協力医による訪問診療等で受診している。訪問診療や訪問看護等への対応は、管理者(看護師)が同席し、情報交換等連携を図っている。病院受診は家族同行を基本とし、連絡ノートを活用して状況報告、結果は口頭で家族から説明を受けている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護ステーションとの契約に基づき、健康管理、皮膚の観察、指導などを受けている。日頃と変化があれば職場内看護師(管理者)へ報告し必要時は主治医との連携を図っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時は施設から情報提供書を提出し、入院期間中は担当のケースワーカーと連携を図り、病状の経過を把握し、時には面会に行き顔をみている。退院が決まったらカンファレンスを設定してもらい情報把握に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期に向けた方針は立てている。本人の状態の経過をみながら主治医を交えて終末期の方針など決めている。昨年7月に一人看取りを行った。	医療機関等と連携し、入居者が望む場所で最期まで暮していけるよう最大限の対応をすることを方針とし、情報の共有を図っている。入居者や家族へは契約時に方針を説明し、状態の変化に応じた繰返しの話し合いも行っている。職員は教育や研修等でケアの統一を図り、昨年は看取りも実施している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時のマニュアルを作成し、連絡網を電話の近くに貼りだし、すぐに連絡ができるようにしている。また年1~2回は施設全体で救急時の対応(AEDの使い方・心肺蘇生法の実施)の学習会を開催している。		

沖縄県(生協グループホーム 安謝)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災訓練は年2回(1回は消防署を呼んで、2回目は自主訓練)実施している。訓練時は近隣の方へも参加呼びかけしている。地震水害時のマニュアル作成はおこなっているが、訓練は未実施である。	防災訓練は年2回消防署へ届出を提出し、消防署と連携した訓練と、夜間を想定した自主訓練が実施している。事業所は3階にあり、1、2階の同一法人事業所との協力体制を整備している。備品の整備が望まれるが、地震等災害時のマニュアルを追加したり、備蓄として食糧等の準備はある。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	開所時にはプライバシー保護やコミュニケーションについての学習会を開催した。職員間で気になる言葉や対応があったら職場会議やカンファレンスなどで検討している。	職員は、プライバシーの保護やコミュニケーションについて学習会等を実施している。理念にも掲げている「本人の出番が作れる場面」を話し合い、介護計画に沿って支援しているが、職員間で同性介助を基本としたケアへの共通認識が図られていない。	入居者一人ひとりの尊重やプライバシーの保護について、職員間で同性介助等統一したケアへの検討が望まれる。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	つじつまの合わない話でも傾聴する姿勢を大事にし、ご本人の意思や自己決定ができるように「どうしますか?」と選択肢をだして決定しやすいように働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	何かするにしても本人の意向やペースを確認しそれぞれが過ごしやすいように支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入浴後は鏡を見てヘアピンをつけたり、眉を書いたり身だしなみやおしゃれができるように支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	いつも食事の準備が気になる方には、作り方、味付けなどを聞いたり、時には野菜を切ってもらう。作業はお茶碗洗い、お膳拭き、テーブル拭きなど活躍する場面を作っている。	食事は3食事業所内で調理している。職員は外出を希望する入居者と一緒に行物に出掛けている。ベランダのプランターで育てた野菜の摘み取りや、盛り付け等を役割を決めて入居者が行っている。入居者と職員は同じ食事を一緒に食卓を囲んで摂っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	月1回の体重チェックを行い体重管理を行っている。主食の量は各自の体重を見ながら決めている。水分量は各自の実施記録でチェックして把握している。		

沖縄県(生協グループホーム 安謝)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	一人一人の口腔ケアの実施状況を把握して、不十分な時は声かけ、一部介助を行っている。できない方に関しては職員で介助し義歯の方は寝る前には洗浄剤を使用して漬け置きして清潔を保持できるようにしている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表から排泄のパターンを把握し、失敗がないようにトイレの誘導時間を決めオムツ(パット)の使用を減らすように努めている。日中はリハビリパンツから綿パンツに変更した方もいる。	排泄チェック表を活用し、トイレ誘導を行っている。個人の介護計画を基に、失敗した時には本人がパット交換を自身で行えるような支援にも取り組んでいる。排尿の少ない方には、スポーツドリンクを提供する等の対応をしている。日中は全員綿パンツにし、パットを併用する方もいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘がちな方には水分摂取を促したり、腹部マッサージなどを施行している。毎日の排泄チェックを行い排便がない場合には指示の緩下剤を使用している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	ケアプラン作成時に入居の曜日、回数など本人に確認して実施している。またその日の体調なども確認しながら変更はその都度行っている。	本人や家族へ入浴の希望について確認し、好きな時間に、毎日でも入浴できるよう職員は支援している。拒否のある方には「湿布薬を換えるので、まず入浴しましょうか」等の声掛けをして、入浴に繋げるよう工夫している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人一人の睡眠状態を把握し、前夜に睡眠時間が不十分であったり、その日の体調に応じて休息している。夏場は部屋が涼しく過ごせるように就寝前にクーラーを入れたり冬場は足先の冷たい方には湯たんぽ寝る前に布団の中に入れて寝やすいよう工夫している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	各入居者の服用している薬をファイルに閉じて薬の名前、効用、用法などを記載している。毎日の服薬は一人一人の薬に日付、名前をつけて飲めない方には手渡しで飲み込むまで確認している。飲んだらシートにチェックを入れ飲み忘れを防いでいる。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	本人の好みや生活歴、仕事歴など情報把握しているが、一人の方(清掃業をしていた方)は本人の希望もあり毎日のフローアのモップかけをおこなっている。洋裁をしていた方には他の方の衣服の繕いを時々行ってもらっている。		

沖縄県(生協グループホーム 安謝)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	毎月1回(花見・博物館・初詣など)は全員が外出できるようにレク係が計画しその時には家族にも声かけし参加してもらっている。毎日、近くの八百屋やスーパーには歩いて出かけている。	日常的に近くの公園等へ散歩をする方がいる。月1回レク係が計画した花見や初詣等には、家族も一緒に出掛けている。入居者全員と職員と一緒に博物館へ出掛け作品を鑑賞し、その後近くに家族のいる方のお宅を訪問し、家族手作りのおやつを頂く等、事前に協力依頼をした外出支援にも取り組んでいる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	・こづかいを持っていたいと希望する方にはご家族に連絡し所持してもらっている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	入居者の方が、家に電話したいと要望があった場合には番号を言いながら本人にかけてもらい会話してもらっている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	廊下や食堂の電気は天気によって明るさを調整できる。廊下の壁には毎月、行事の時の写真や共同で作成したちぎり絵などを貼り、季節感を味わえるように工夫している。トイレは3箇所あり1箇所は車椅子対応にして広々としている。	共用空間の台所は対面式で、入居者と職員は食卓の準備や調理を行っている。フロアーに設置された3人掛けのソファーに腰掛けて音楽を聞いたり、ベランダの草花を観賞して寛ぐ方もいる。壁には入居者が作成した季節に合った塗り絵が展示されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有空間に食堂テーブル・テレビの前にソファーを置いてすわって雑誌をみたりテレビを見たり、時にはソファーから外を眺めたりして過ごしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	施設ではベット・タンスを準備してあるが、それ以外は自宅で使用していた家具や使い慣れたものを持参するように声かけは行っている。家族や孫の写真などを飾っている。	居室には、事業所で準備されたベッドとタンスが設置され、壁には温度計が掛けられている。入居者は使い慣れたリクライニングチェアや楽器を持ち込んでいる。事業所で用意した本を居室に持ち込み、読書を楽しむ方もいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	・入居者ひとり一人の身体機能や認知症状などが違うので、ケアカンファレンスなどで本人のできること、転倒のリスクなどをみんなで情報共有し対策を行っている。		